

NTT-ATの5つのビジョン。



Ver.7.4.0 リリースノート

NTTアドバンステクノロジー株式会社

WinActor Ver.7シリーズとは

NTT-ATの5つのビジョン。



WinActor Ver.6 シリーズをリメイクした全く新しいWinActorです。Ver.7シリーズでは、最大の特徴である「現場フレンドリー」の思想を一層進化・深化させ、初心者はもちろん上級プログラマにとっても対応可能な、誰もが使いやすいRPAを追求します。

WinActor Ver.7.4.0 の特徴

新たなブラウザ拡張機能

起動済みブラウザに対する操作
ブラウザ操作ライブラリ追加

開発環境の利便性向上

自動記録時の操作対象の自動切り替え
記録時のWinActorウィンドウを小さくする
検索画面の改善 ※1
問い合わせ用情報収集 ※1
シナリオ編集・デバッグ機能改善
画面状態確認機能の拡充
ダークテーマのアイコンデザイン見直し

開発環境メンテナンスの自動化

ライブラリ自動最新化
EdgeのWebDriverオンラインアップデート ※1
プロキシ自動設定ファイルへの対応
起動時の古い作業ファイルの削除
オンラインライセンス登録 ※1

Storyboard機能拡充

オンラインアップデート※1
シナリオ情報画面

※1 クラウドサービスとの通信が発生します。



新機能

新機能の表記について



このリリースノートではライセンス、機能毎の違いを説明するために、次の表記を用います。



この表記がある場合、NL版でご利用できます。



この表記がある場合、FL版でご利用できます。

FULL

この表記がある場合、フル機能版でご利用できます。

実行

この表記がある場合、実行版でご利用できます。

管理

この表記がある場合、管理実行版でご利用できます。

新たなブラウザ拡張機能の導入

新たなブラウザ拡張機能

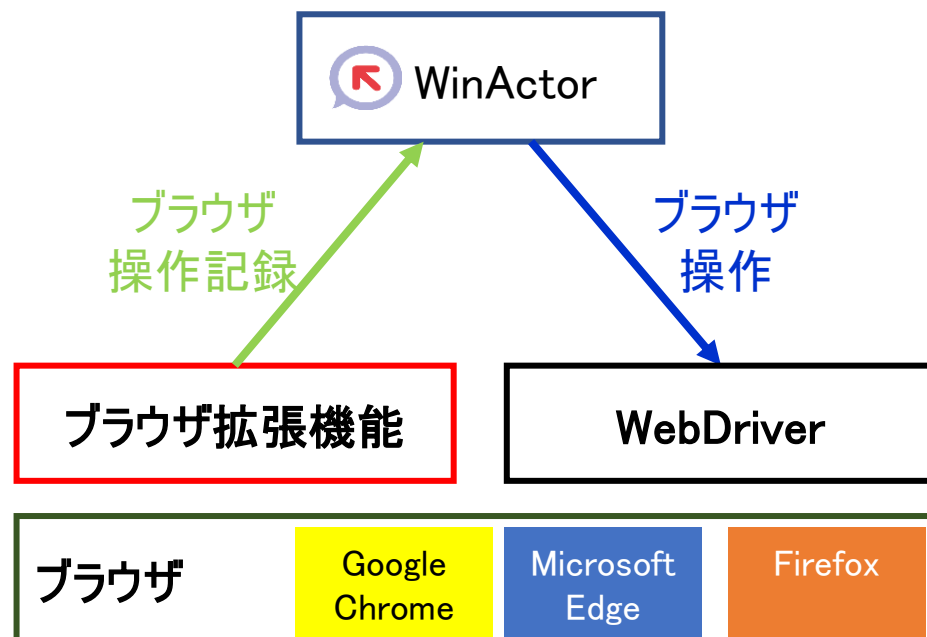


WinActor Ver.7.4.0 より、新たなブラウザ拡張機能を使用します。



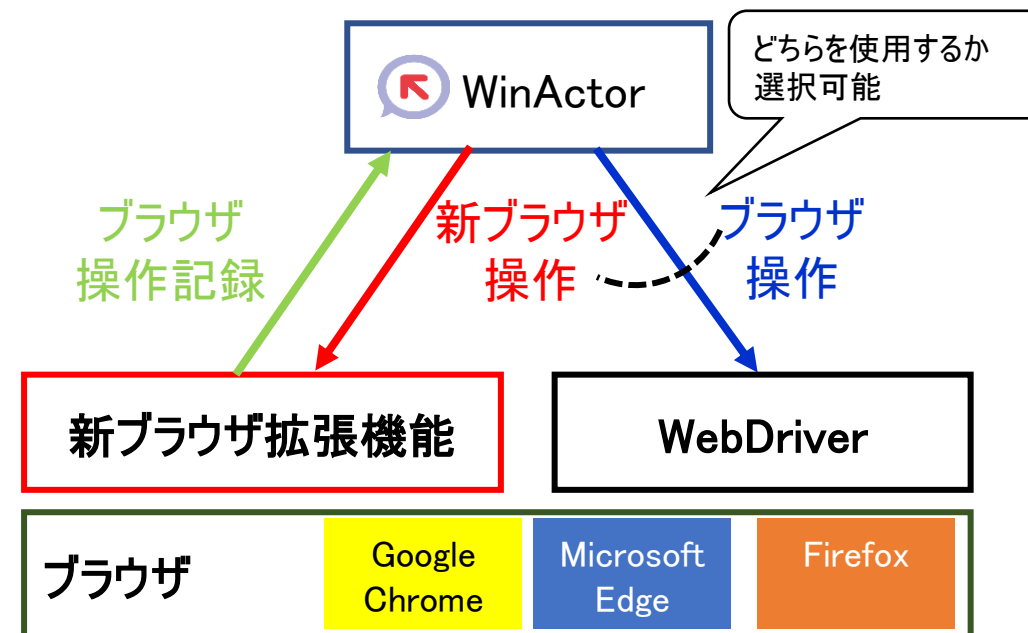
- 従来はできなかったブラウザ操作が可能になります（詳細は次ページ以降で説明）。
- 従来通りの WebDriver によるブラウザ操作を選択する事も可能です。その場合は従来通りの動作となります。

Ver.6, Ver.7.3.1以前



WinActor用に開発されたブラウザ拡張機能を用いて、ブラウザの操作記録を行います。各ブラウザ用に公開されているWebDriver を用いて、ブラウザを操作します。

Ver.7.4.0



新ブラウザ拡張機能は、ブラウザの操作記録に加えて、ブラウザの操作も可能になります。加えて、起動済みブラウザに対する操作等、これまでできなかったブラウザ操作が可能になります。

起動済みブラウザに対する操作(1/3)



起動済みのブラウザに対する操作が可能となります。



- シナリオ実行前に手動でWebサイトの認証処理を済ませておくことにより、シナリオに認証情報を記述する事無く、Webサイトの操作が可能になります。
- 本機能のご利用のためには、ブラウザへ新ブラウザ拡張機能をインストールいただく必要があります。
- 今までのブラウザ操作とほぼ同等の処理が可能ですが一部制約事項があります。
- 起動済みのブラウザに対する操作はできませんが、従来の WebDriver を用いた操作も引き続き選択できます。
 - ・ オプション画面の[ブラウザ]タブにて、ブラウザ種別ごとに(Chrome / Edge / Firefox) 拡張機能で操作するか / WebDriverで操作するかを選択できます。
 - ・ シナリオ情報画面の[その他]タブの「ブラウザの操作にWebDriverを利用する」にて、シナリオファイルごとにブラウザ操作方式を設定できます。本機能は、互換性確保のために用意されており、Ver.6やVer.7.3.1以前のWinActorで作成したシナリオを読み込んだ場合デフォルトでONになります。

Ver.7.4.0における制限とお願い事項

- ※ これまで自動記録に使用していたChrome/Edge/Firefox向けのブラウザ拡張機能が新しくなっています。そのため、既にブラウザ拡張機能を導入済みの環境でも、自動記録を行う際には改めてブラウザ拡張機能の再導入をお願いいたします。既存のブラウザ拡張機能のバージョンアップではありませんので、Ver.6やVer.7.3.1以前を併用される場合、旧ブラウザ拡張機能はアンインストールせずに残しておいてください。
- ※ 新しいブラウザ拡張機能はChromeウェブストアに公開しています。ご使用のブラウザの種別に応じて同梱のChrome拡張機能インストールマニュアル、または、Firefox拡張機能インストールマニュアルをご参照の上、導入をお願いいたします。

起動済みブラウザに対する操作(2/3)

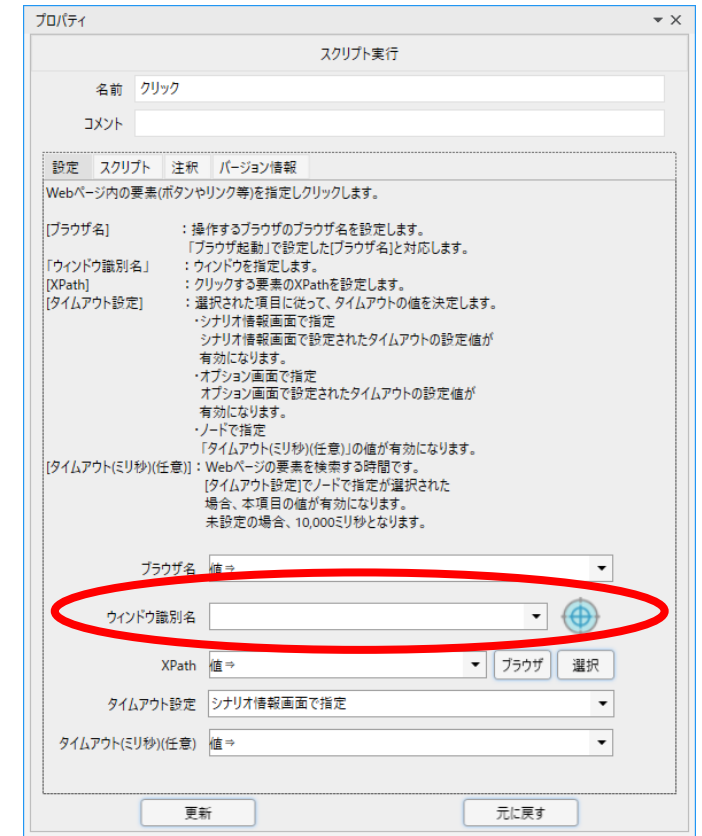


起動済みブラウザに対する操作では、IEに対する操作と同様に
ウィンドウ識別ルールによって操作対象のウィンドウを選択できるようになります。

23_ブラウザ関連配下の多くのライブラリに[ウィンドウ識別名]の
パラメータが追加されています。

また、[23_ブラウザ関連/ブラウザ名を付ける]ライブラリにより、
ウィンドウ識別ルールによって指定されるウィンドウのブラウザに
ブラウザ名を付け、今までのブラウザ操作と同様に
ブラウザ名により操作対象を指定することもできます。

ただし、WebDriverによる操作が指定されている場合に
ウィンドウ識別名が指定されるとシナリオ実行時にエラーとなります。



例:[23_ブラウザ関連/クリック]ライブラリ

起動済みブラウザに対する操作(3/3)



新ブラウザ拡張機能によるブラウザ操作では、下表に示す制約事項があります。



#	制約対象		制約内容・回避策等
1	同梱ライブラリ 利用時	23_ブラウザ操作/03_クリック/ダイアログクリック	新ブラウザ拡張機能では本ライブラリを使用できません。 シナリオ実行時にエラーが発生します。 WebDriverで本ライブラリをご利用下さい。ただし、WebDriverで起動した ブラウザしか操作できません。
2		23_ブラウザ操作/ファイル選択	
3		23_ブラウザ操作/値の設定（入力再現）	
4	シナリオ実行 時	ダイアログ表示下での要素の操作	ダイアログを閉じれずエラーとなります。ダイアログを閉じるシナリオを追加・ 挿入して下さい。
5		ブラウザ操作中に発生するブラウザのイベント	WebDriverで同じ操作をした場合とはブラウザに発生するイベントが異なる ことがあります。 新ブラウザ拡張機能によるブラウザ操作にて対象のWebアプリケーションの 反応がない場合、エミュレーションの利用やWebDriverでの操作をご検討く ださい。
6	ブラウザ条件		Chrome/Edgeを利用する場合、Ver.100以降での利用が条件となります。

ブラウザ操作用ライブラリ追加



IE向けと同等のライブラリをChrome/Edge/Firefox向けに提供します。  FULL 実行 管理

これにより、**IEからのブラウザ移行を容易にします。**

➤ 追加されるライブラリ

23_ブラウザ関連/

01_起動&クローズ/指定URLのブラウザを閉じる
03_クリック/指定タグの指定テキストをクリック
04_待機/読み込み完了待ち_タイムアウト付き
05_表/セルの存在チェック
06_リスト/リスト一括取得

03_クリック/実行結果付きクリック
03_クリック/指定テキストをクリック
04_待機/読み込み完了待ち
05_表/表の一括取得

ライブラリ自動最新化



今まで手動で行う必要がありましたシナリオファイルに
含まれるライブラリのバージョンアップが自動的に行える
ようになります。

ライブラリチェッカーにてIE操作関係のライブラリについては、
自動的に置換が行えていましたが、本機能により、
IE操作関係のライブラリだけでなく、全てのライブラリの
Ver.7.4.0リリース時への最新化が行えるようになります。



EdgeのWebDriverオンラインアップデート

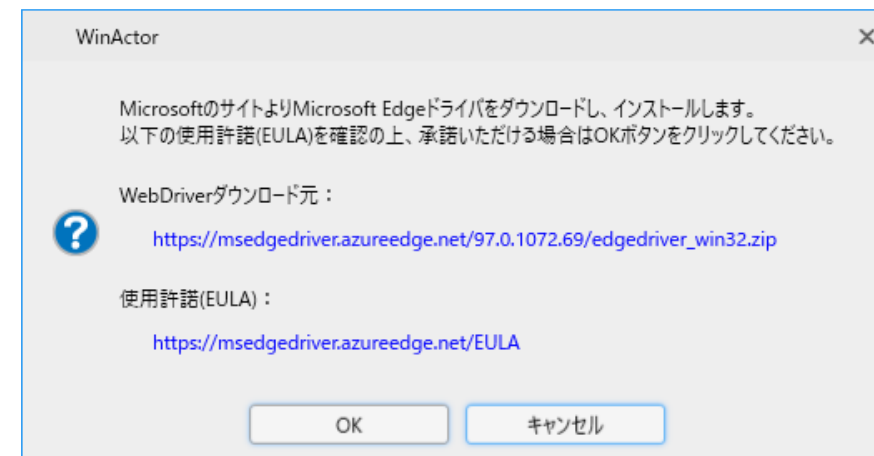
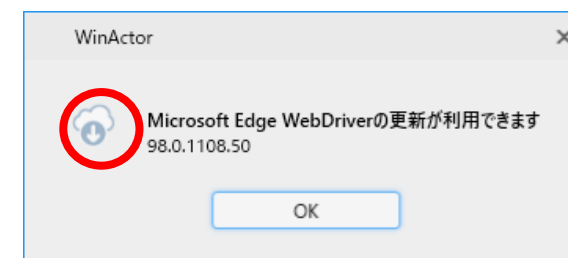


EdgeのWebDriverのオンラインアップデートができるようになります。



EdgeのWebDriverについては、WebDriverの更新方針を[自動更新]に設定しても自動的に更新されず、[手動更新]を設定した場合と同じ動作となり、更新一覧画面にてダウンロードを指示いただく必要があります。更新一覧画面にてEdgeのWebDriverのダウンロードボタンをクリックした際に右下のダイアログが表示されるようになります。

EdgeのWebDriverの使用許諾(EULA)のURLとダウンロードURLが表示されます。使用許諾のご確認後、OKボタンのクリックにより、ダウンロード、及び、インストールが行われます。



※ EULAのURLをクリックいただくことによりブラウザにて該当URLを開きます。
2022年4月時点ではテキストファイルがダウンロードされますので、
ダウンロードされましたテキストファイルにて、内容のご確認をお願いします。

※ EdgeのWebDriverのダウンロードにて、ダイアログに表示されているURLと通信が発生します。
プロキシ環境で利用する際はオプション画面よりプロキシサーバー設定を行ってください。

プロキシ自動設定ファイルへの対応



WinActorにおけるプロキシの設定にて、プロキシ自動設定ファイル(PACファイル)へ対応します。



FULL

実行

管理

オプション画面の[プロキシサーバ] タブにて、プロキシ自動設定ファイル(PACファイル)による設定を指定することができます。

ユーザー環境で利用されていたPACファイルを活用し、プロキシの設定を行うことが可能となります。

また、WinActorに直接設定せず、インターネットオプションの設定やOS(WinHTTP)による設定においても同様にPACファイルによる設定がWinActorに反映されるようになります。

The screenshot shows the 'オプション' (Options) dialog box with the 'プロキシサーバ' (Proxy Server) tab selected. The 'プロキシサーバ' (Proxy Server) section is active, showing a checked checkbox for 'プロキシサーバを利用する' (Use Proxy Server). Below this, it says 'プロキシサーバの設定方法を選択してください。' (Please select the proxy server setting method). Three radio buttons are present: 'インターネットオプションの設定を使用' (Use Internet Options settings), 'OS (WinHTTP) の設定を使用' (Use OS (WinHTTP) settings), and 'セットアップスクリプト(pac)を使用' (Use Setup Script (pac)), with the last one being selected. A text field labeled 'スクリプトのアドレス' (Script Address) is at the bottom.

編集	時刻	ログ	スクリーンセーバー	更新	ブラウザ	その他
管理サーバ		プロキシサーバ	サーバ接続状況	ログサーバ	実行	記録

☒ プロキシサーバを利用する

プロキシサーバの設定方法を選択してください。

☐ インターネットオプションの設定を使用

☐ OS (WinHTTP) の設定を使用

☒ セットアップスクリプト(pac)を使用

スクリプトのアドレス

起動時の古い作業ファイルの削除



WinActorの起動時に、作業フォルダに残っていた古いファイルを削除するようになります。



FULL

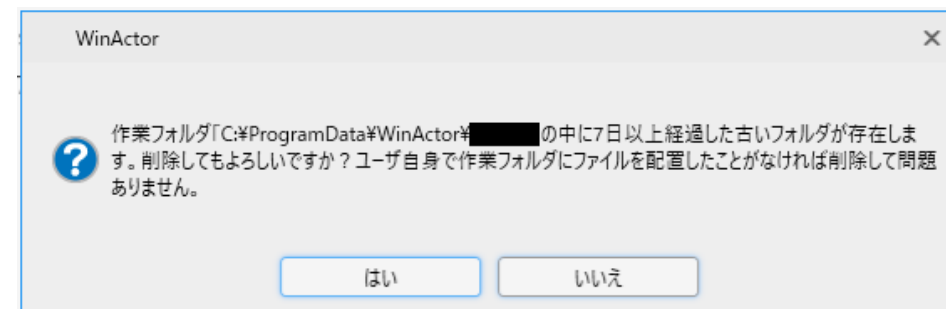
実行

管理

WinActorの作業フォルダ(多くの場合はC:\ProgramData\WinActor)配下のファイルについて、通常はWinActor終了時に使用したファイルの削除を行っていますが、該当ファイルが他のプロセスによって使用中の場合等、削除できないことがあります。

WinActorの起動時に作業フォルダに7日以上経過した古いフォルダを検知しますと、右のダイアログが表示されます。

ユーザー自身にて該当フォルダ配下へファイルを配置したことがなければ、**削除して問題ありませんので、「はい」を選択してください。**



オンラインライセンス登録



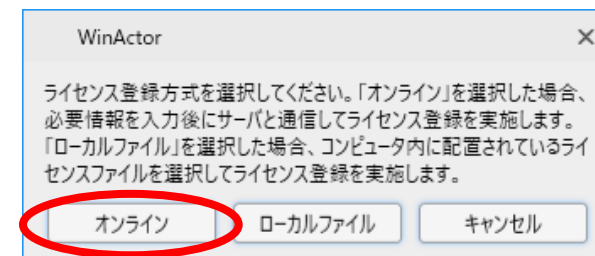
WinActor画面に保守契約ID等を入力し
NL版のライセンスが登録できるようになります。

NL版のバージョン情報画面にて[ライセンス登録]ボタンをクリックすると
右のダイアログが表示されるようになります。

従来のWeb画面での製品ID等の情報入力や、メール通知されたライセンスファイルを
各マシンに配る作業が不要になり、NL版のライセンス登録作業を効率化できます。
ライセンス移管についても、移管元PCでのライセンスクリアの際にオンラインで通知を
実施すると、Web画面でのライセンスクリア証明書を提出せずに、移管先PCでライ
センス登録が可能となります。

現行のライセンス発行フローも従来通り利用可能です。

※ オンラインライセンス登録、及び、オンラインライセンスクリアを実施する際、NTT-AT社管理のサーバーと通信が発生します。
プロキシ環境で利用する際はオプション画面よりプロキシサーバー設定を行ってください。



オンラインライセンス登録

ライセンス発行のため、以下の情報を入力後に「登録」ボタンをクリックしてください。「登録」ボタンをクリックするとサーバ(<https://registration.winactor.biz>)と通信します。
保守契約IDとライセンス終了日、ライセンス種別が正しく入力されていない場合、エラーとなりますので必ずご確認ください。PC名にはご利用の環境を区別できる任意の名前をご入力ください。

保守契約ID

ライセンス終了日
yyyy-mm-dd

ライセンス種別
☒ フル機能版 ☐ 実行版

PC名 (任意の名前をご入力ください)



自動記録時の操作対象の自動切り替え

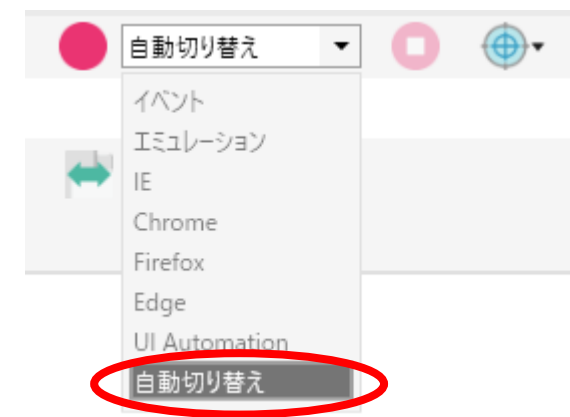
ユーザー操作の記録中にアクティブウィンドウを変更した際に
自動的に記録対象を切り替えるモードを追加しました。



複数のウィンドウを行き来するような操作を記録したい場合に都度
WinActorで対象アプリケーションを選択せずに**シームレスに記録を続けるこ
とができます。**

新規記録モードである [自動切り替え] を選択した状態で、記録開始ボタ
ンをクリックすることで本機能を利用できます。

各ブラウザの自動記録をご利用いただくためには、ブラウザへ新しい拡張機
能のインストールが必要です。



Ver.7.4.0における制限とお願い事項

- ※ これまで自動記録に使用していたChrome/Edge/Firefox向けのブラウザ拡張機能が新しくなっております。
そのため、既にブラウザ拡張機能を導入済みの環境でも、自動記録を行う際には改めてブラウザ拡張機能の再導入をお願いいたします。既存のブラウザ拡張機能のバージョンアップではありませんので、Ver.6やVer.7.3.1以前を併用される場合、旧ブラウザ拡張機能はアンインストールせずに残しておいてください。
- ※ 新しいブラウザ拡張機能はChromeウェブストアに公開しています。ご使用のブラウザの種別に応じて同梱のChrome拡張機能インストールマニュアル、または、Firefox拡張機能インストールマニュアルをご参照の上、導入をお願いいたします。



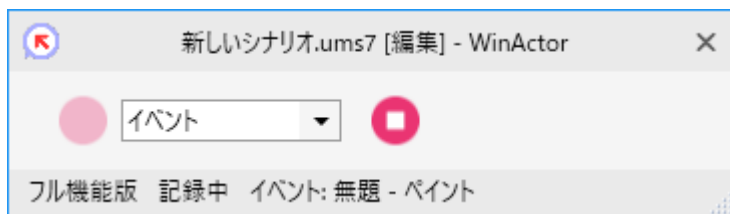
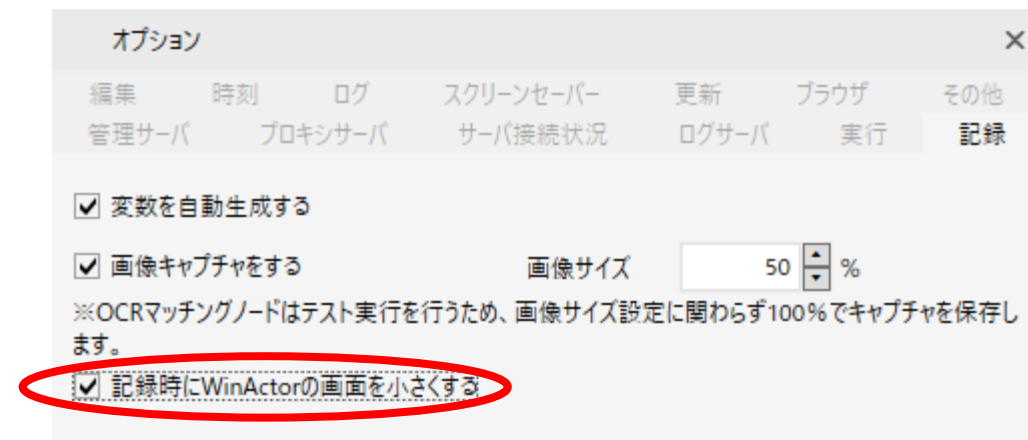
記録時のWinActorウィンドウを小さくする

記録対象アプリの操作の邪魔とならないよう

記録時のWinActorのウィンドウを小さくできるようになります。



オプション画面の [記録] タブにて、
[記録時にWinActorの画面を小さくする] にチェックをいれることにより、記録中のWinActorの画面が、下図のように小さくなります。




検索画面の改善

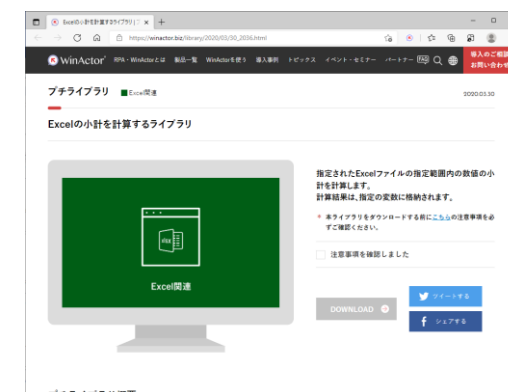


検索画面について次の改善を行っています。

検索条件に[同梱ライブラリ]と[サブシナリオ]が追加されました。
Ver.7.3では常に同梱ライブラリが検索結果に表示されていましたが、
必要に応じ、**CloudLibraryの検索のみができる**ようになります。

[...]ボタンをクリックすることにより、検索条件部分の表示・非表示を
切り替えられるようになり、**検索結果を広く確認することができる**
ようになります。

検索結果について、winactor.bizサイトの詳細情報が参照できる場合、
 ボタンが表示され、クリックすることにより、**ライブラリの詳細を確認する
ことができる**ようになります。



問い合わせ用情報収集



シナリオの編集や実行にトラブルがあった場合の
問い合わせに必要な情報を手軽に収集できるようになります。

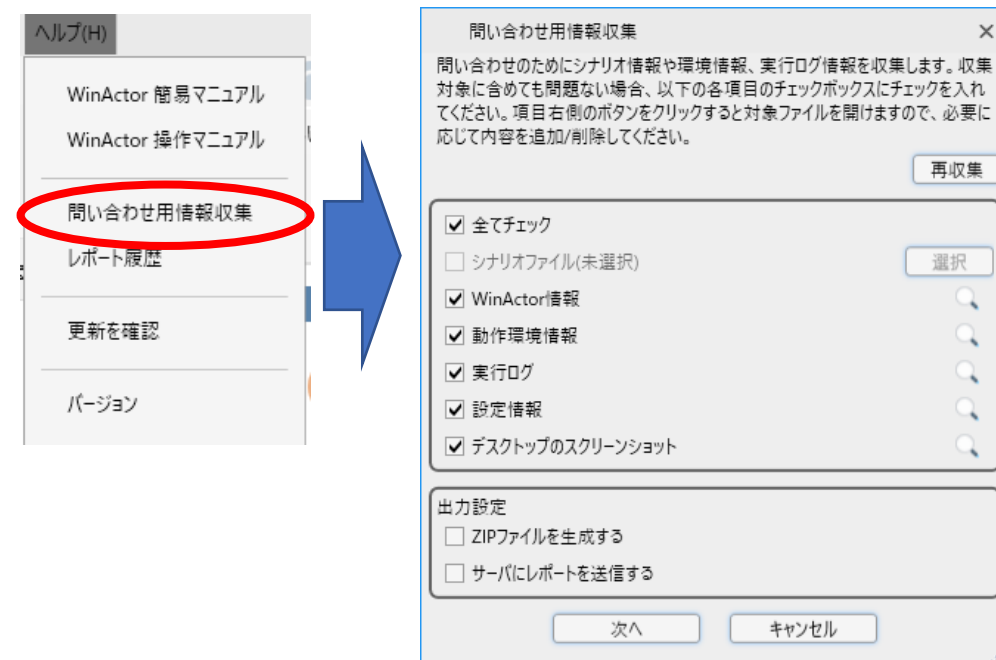


- 販売店へお問合せの際に、サーバー送信後に表示されるレポートIDまたはログ情報(zipファイル)をお送りいただくと、対応がスムーズになり、解決までの時間短縮が期待できます。
- 直近のシナリオ実行ログをいつでも収集できますので、問題を再現するためにシナリオを再実行する必要がなくなります。

収集した情報は、お客様が内容を確認して送信を選択した場合のみに送信されます。自動的にお客様の情報が送信される事はありません。

※ 情報収集の際は、業務上差し支えのある情報が含まれていないことを必ずご確認ください。

※ サーバー送信を実施する際、NTT-AT管理のサーバーと通信が発生します。
プロキシ環境で利用する際はオプション画面よりプロキシサーバー設定を行ってください。



不測のエラーが発生した際、またはヘルプメニューから[問い合わせ用情報収集]を選択した際に、選択された情報を収集します。収集した情報は、ZIPファイルを生成して格納/サーバーに送信が選択可能です。サーバーに送信した場合、送信後に表示されるレポートIDをご連絡頂くまでは、送信された情報とお問い合わせとの関連付けは行われません。

シナリオ編集・デバッグ機能改善1



個々の付箋に対して指定する必要のあった付箋の表示・非表示について、コンテキストメニューより一括で付箋の表示・非表示を指定できるようになります。

これまで選択したノードのみを部分的に実行することはできましたが、コンテキストメニューの [ここから実行] にて、指定したノードから実行を開始し、シナリオのデバッグを行うことができるようになります。

ただし、次の場合は、シナリオの実行が途中で終了します。

- サブルーチンから実行を開始した場合、呼び出し元へ遷移せずに終了します。
- 繰り返しの内側から実行を開始した場合、繰り返しを行うことなく終了します。





オプション画面の [編集] タブにて、[選択項目削除時にダイアログによる確認をしない] の設定により
選択ノードを削除する際の確認ダイアログを表示しないようにすることができます。

オプション画面の [その他] タブの [ノード表示幅] について、Ver.7.3まではグループノードに対してのみ有効でしたが、Ver.7.4よりその他のノードおよびライブラリについても設定が有効となります。
ノードに長い名前を付け、各ノードの役割を分かりやすくすることができるようになります。

オプション

管理サーバ	プロキシサーバ	サーバ接続状況	ログサーバ	実行	記録
編集	時刻	ログ	スクリーンセーバー	更新	ブラウザ

☐ 超過時に警告を表示する

☐ ターゲット選択時にWinActorの画面を消す

☐ プロパティ画面切り替え時、プロパティを自動保存する。

☒ 選択項目削除時にダイアログによる確認をしない

表示ノード数上限

オプション

管理サーバ	プロキシサーバ	サーバ接続状況	ログサーバ	実行	記録
編集	時刻	ログ	スクリーンセーバー	更新	ブラウザ

ノード表示幅

表示ログ行数上限

フォントサイズ

☒ CSVファイル読み込み時に連続する改行文字をまとめる

☒ 最小化時にタスクバーにアイコンを表示する



シナリオ実行時に**対象が操作可能となるまでノードの実行を自動的に待機するライブラリ**を増やしました。



Ver.7.3では、04_自動記録アクション配下のIE及びUIオートメーション関連ライブラリ、23_ブラウザ関連配下のブラウザ操作関連ライブラリへ本機能が導入されていました。

Ver.7.4では、新たに以下のライブラリ含め74個のライブラリへ本機能を導入しました。

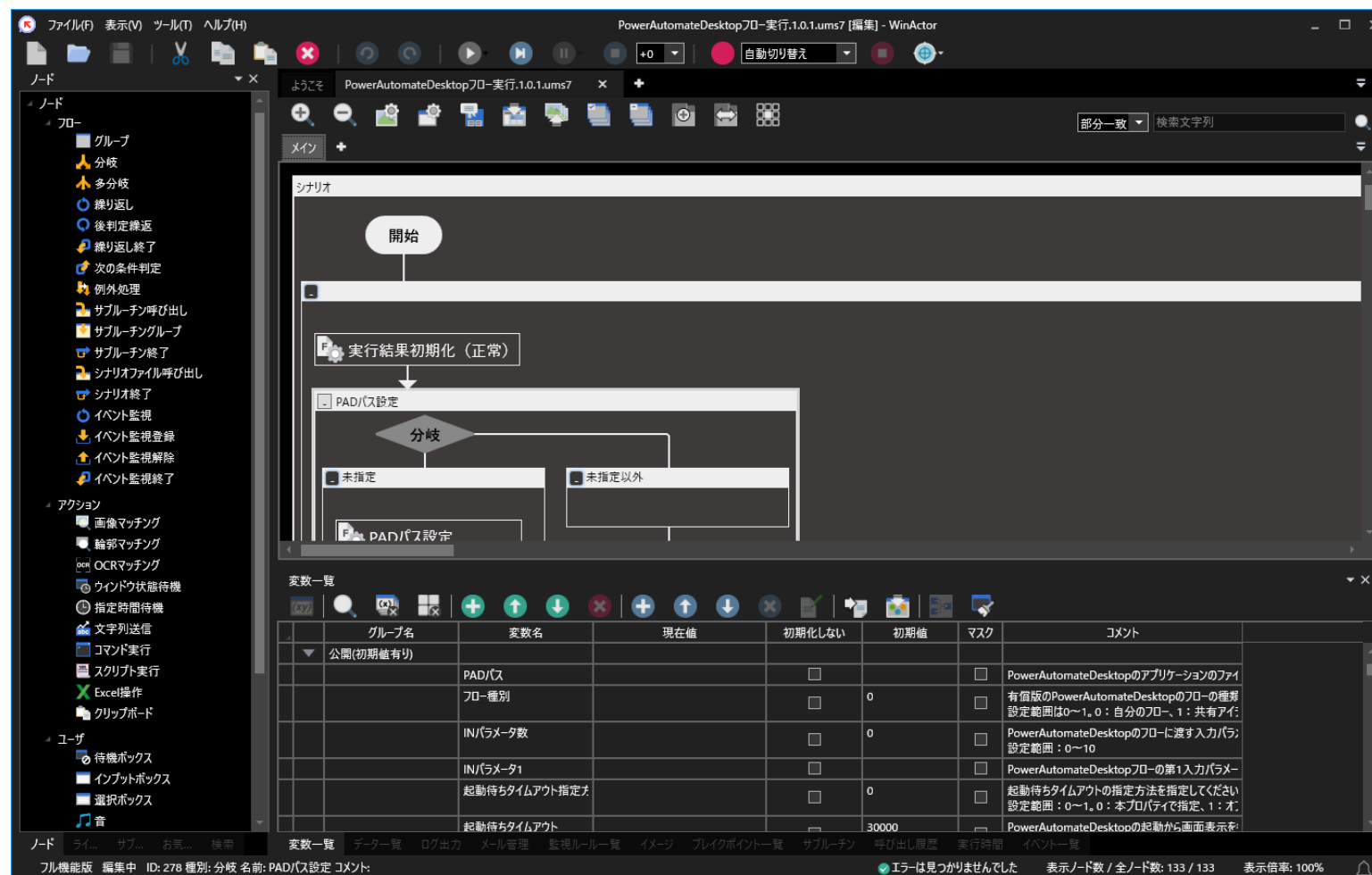
- 04_自動記録アクション配下のWIN32関連ライブラリ
- 11_ウィンドウ関連配下のウィンドウ識別ルールを用いるライブラリ
- 16_画面キャプチャ色判定配下のウィンドウ識別ルールを用いるライブラリ
- 17_IE関連配下のウィンドウ識別ルールを用いるライブラリ
- 24_Java関連配下のウィンドウ識別ルールを用いるライブラリ

ダークテーマのアイコンデザイン見直し

開発環境の利便性向上



ダークテーマのアイコンデザインを見直し、**視認性を向上**させました。



Storyboard機能拡充1: オンラインアップデート

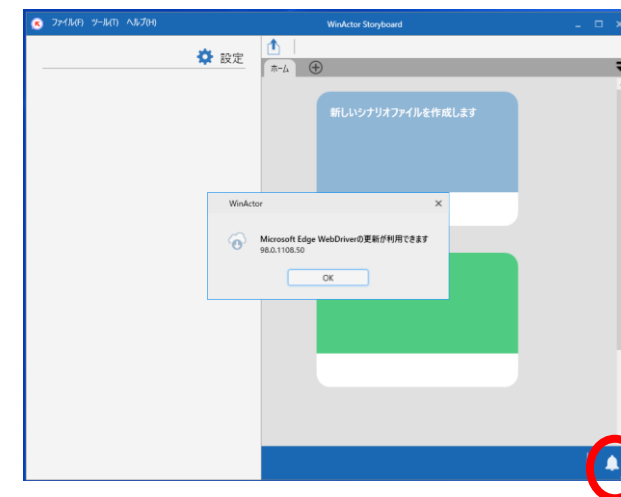
Storyboard機能拡充

オンラインアップデートがStoryboardでも利用可能となります。

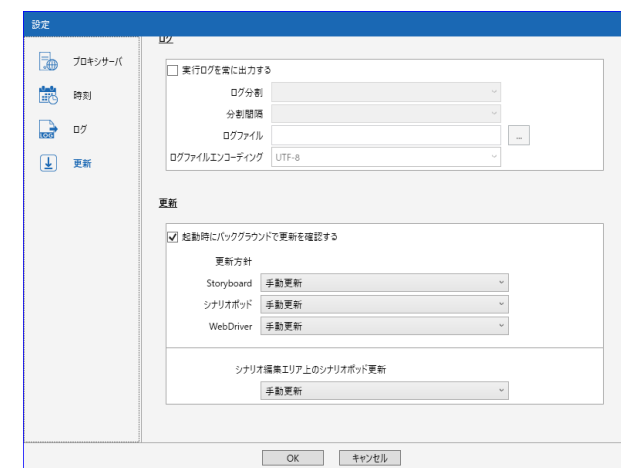


Storyboard本体、シナリオポッド、および、WebDriverについて、オンラインアップデートができます。

[設定] により起動時に更新チェックを行うこともできますが、右下のベルのアイコンをクリックすることにより更新チェックが行われます。



[設定] の [シナリオ編集エリア上のシナリオポッド更新] について
自動更新を設定した場合、シナリオ読み込み時にシナリオポッドが最新化され
手動更新を設定した場合、右下に現れる更新ボタンをクリックすることで、シナリオポッドの最新化が行えます。



※ 更新を確認する際、および、オンラインアップデートを実施する際、NTT-AT管理のサーバーと通信が発生します。
プロキシ環境で利用する際はオプション画面よりプロキシサーバー設定を行ってください。

Storyboard機能拡充2: シナリオ情報画面

WinActorと同じくStoryboardにてシナリオ情報に関する設定を行うことができます。

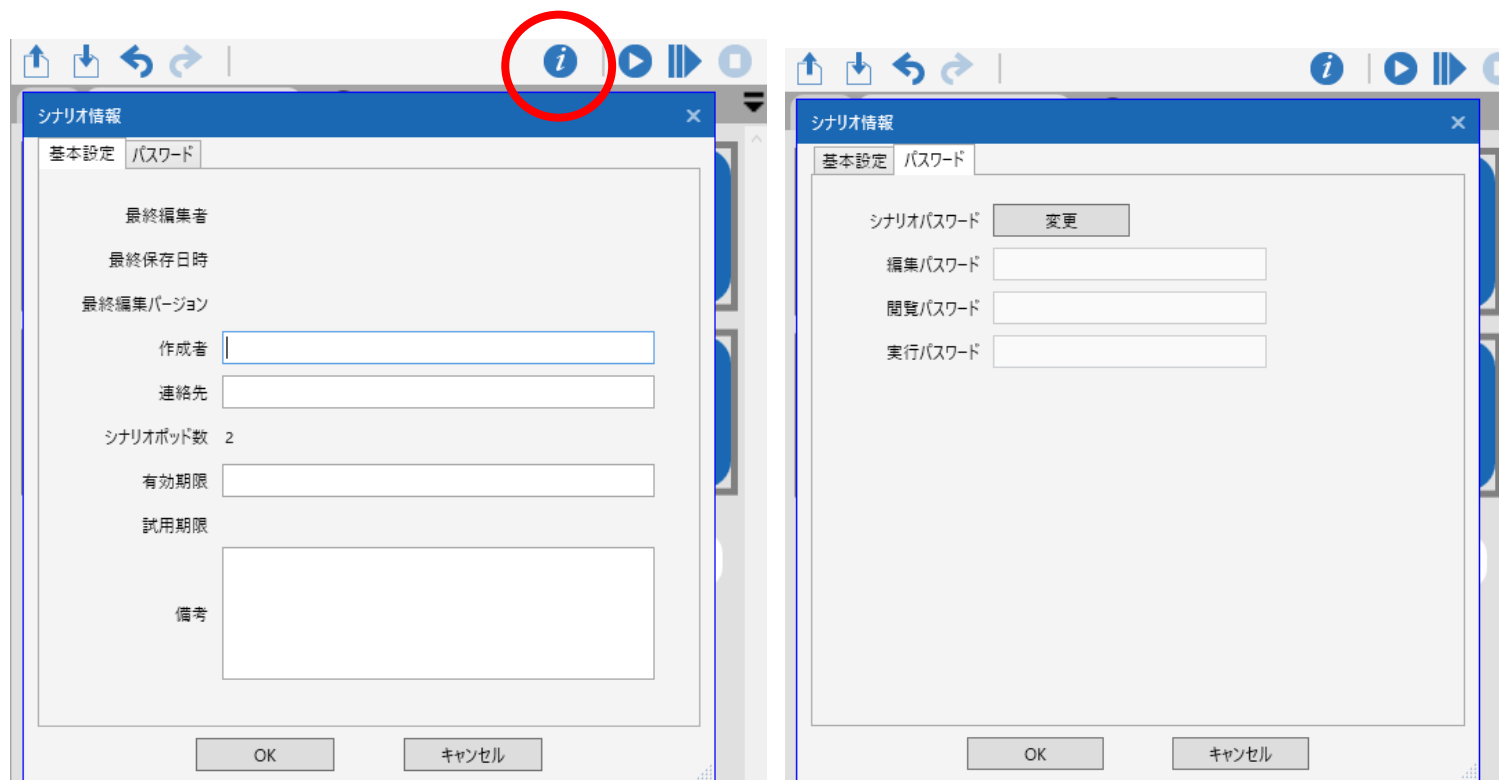


シナリオ編集集中に現れるiボタンをクリックすることにより、編集集中のシナリオファイルのシナリオ情報を確認・設定することができます。

WinActorのシナリオファイル(ums)と同様に、

- 編集パスワード
- 閲覧パスワード
- 実行パスワード

を設定することができ、
必要に応じシナリオファイルを
保護することができます。





Ver.7.4.0では互換性に関わる以下の修正を行っています。

- ① 同梱のサブシナリオでは、エラー発生時にダイアログを表示していましたが、シナリオで例外処理が記載できず、ユーザーがダイアログを操作しなければ実行が再開できませんでした。シナリオ中の例外処理にて対応可能とするため、アクション例外を発生させるよう修正しました。
- ② 変数の初期値等に含まれる改行文字が揺れていたため、CRLFに統一しました。「待機ボックス」、「インプットボックス」、「選択ボックス」のプロパティの「メッセージ」項目にも同様の問題がありましたので合わせてCRLFに統一しています。

改善、要望の一覧について



Ver.7.4.0にて行いました改善の一覧(62件)は
「WinActor_v740_upgrades_20220517.pdf」
に記載します。

Ver.7.4.0にて対応を行いました要望の一覧(13件)は
「WinActor_v740_requests_20220517.pdf」
に記載します。

また、上記改善一覧とは別に、WinActor及びWinActor Storyboardで表示するメッセージをより分かりやすくするため見直しています。



WinActor[®] Ver.7.4.0 リリースノート

NTTアドバンステクノロジー株式会社

Copyright(c) 2022 NTT Corp. & NTT Advanced Technology Corp. All Rights Reserved.

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。
本書の内容は予告なく変更される場合があります。

64-I-0428

未来を拓くチカラと技術。

